

平成29年度 農山漁村振興交付金(山村活性化対策) 事業実施主体 評価結果

1. 事業評価の実施

平成29年度に実施された農山漁村振興交付金(山村活性化対策)の事業について、「農山漁村振興交付金実施要領」(平成28年4月1日付け27農振第2326号農林水産省農村振興局長通知)別紙3の第7の1の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2. 評価結果

都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階							評価	評価コメント
			H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33		
長野県	伊那市	伊那市	●	●	●	○	○	○	□	B	必要に応じ、常により良いアプローチを検討されたい。活発な取組みの継続を。

(注1) 「事業実施段階」の凡例: ○…交付対象年度(計画) ●…交付対象年度(実施済) □…目標年度(計画) ■…目標年度(実施済)

(注2) 「評価」の区分: A…優良 B…良好 C…低調

3. 第三者の意見聴取

農山漁村振興交付金実施要領別紙3の第7の1の規定に基づき、第三者である伊東嘉文氏から評価に当たり意見の聴取を行った。第三者及び意見聴取の概要は以下のとおり。

【第三者】

伊東 嘉文

【意見聴取の概要】

【商品開発について】豊富な地域資源に恵まれてはいるものの、年1品の開発ペースは大変かもしれない。

【特用林産物の売上げ】現時点では目標未達となっているが、現在の取組みで良い結果が出るようなら、同じ方法で更に拡大すべき。

【耕作放棄地の解消】非常に順調と感じる。

平成29年度 農山漁村振興交付金(山村活性化対策) 評価シート

1. 事業実施主体(評価者)	伊那市	事業開始年度	目標年度	事業実施期間
2. 取組振興山村名	旧 高遠町(長藤村、三義村、藤澤村)	平成27年度	平成33年度	平成29年4月3日～平成30年3月30日
3. 事業費(うち国費)	2,682,476円(2,682,476円)			
4. 第三者氏名	伊東 嘉文			
5. 事業評価				
総合評価				
○ 取組の実施状況や目標の達成に必要な取組が十分に行われたか。 (①から④までを踏まえた総合的な評価)		(評価理由及び助言等のコメント)		
評 価 (該当に○)	(A) (B) (C)重点指導対象	<p>【商品開発について】豊富な地域資源に恵まれてはいるものの、年1品の開発ペースは大変かもしれない。情報のアンテナを高くし、熟考の上、開発を進めて頂きたい。</p> <p>【特用林産物の売上げ】現時点では目標未達となっているが、現在の取組みで良い結果が出るようなら、同じ方法で更に拡大すべき。</p> <p>【耕作放棄地の解消】非常に順調と感じる。H30年度以降も羊の確保をしっかりと行い、取組みの拡大を期待する。</p>		
① 取組状況				
○ 目標の達成に資するための取組が行われたか。		(評価理由及び助言等のコメント)		
評 価 (該当に○)	(A) (B) (C)重点指導対象	<p>・カラマツの炭化物の混入を、花卉栽培土の連作障害対策として実証試験を行っているが、効果の検証をしっかりと行い、継続性を判断されたい。</p> <p>・特用林産物の増殖については、目標未達となっているが、取組み方次第で結果を得られるため、取組みを継続していただきたい。</p> <p>・高付加価値化による商品数の開発は、鋭意の取組みを期待する。</p>		
② 事業実績				
○ 事業実施計画の目標は達成できているか。		(評価理由及び助言等のコメント)		
評 価 (該当に○)	(A) (B) (C)重点指導対象	<p>総合達成率 158% = [指標1(50%)+指標2(98%)+指標3(325%)]÷3</p>		
③ 実施体制				
○ 事業実施主体の取組体制は十分に機能したか。		(評価理由及び助言等のコメント)		
評 価 (該当に○)	(A) (B) (C)	<p>今後取組みを継続・拡大するためにも、地元の中でも取組みを広く知っていただき、多くの方に関わっていただける体制づくりをお願いします。</p>		
④ その他				

※複数名の学識経験者等第三者から意見聴取している場合、第三者間で調整した意見結果を記載する。

別紙2

(任意評価様式第3号)

平成29年度	事業開始 3年目	長野県 伊那市	伊那市
--------	-------------	---------	-----

農山漁村振興交付金（山村活性化対策）

○事業の実施状況

<p>羊による除草管理</p>  <p>耕作放棄地への羊放牧</p>  <p>地元保育園児とのふれあいま</p>	<p>特用林産物(キノコ類)の増殖</p>  <p>植菌の様子</p>
<p>カラマツ林の森林セラピー利用の可能性検討</p>  <p>冬季の森林セラピー（デモ）</p>  <p>空気清浄度の高い土地でのみ 生育するサルオガセ</p>	<p>花卉栽培土への炭混入試験</p>  <p>土壌の連作障害対策の検証のため実施</p>  <p>地域材から作ったカラマツ炭</p>

《副次的効果》



企業のCSR活動受入支援

○今後の事業構想

補助金事業としては終了となるが、元々の活動母体である組織が引き継ぎ、今後も取組みを続ける。
高付加価値化による商品（地域産品）の開発ペースが滞ってしまっているため、まずは羊をテーマに開発検討を進める。
特用林産物の増殖については、前年度植菌したものが収穫できる予定のため、売上げ増を見込んでいる。
羊放牧による耕作放棄地の解消は、今後も放牧地を広げ、管理に困っている農地の管理省力化のための打開策となるよう、取組みを進める。